

観光立国の実現は地方(地域)から

旅行業4社
トップ座談会

観光大国実現へ、旅行業

堀坂 訪日インバウンドは4千万人、6千万人という国の目標があり、東京オリンピックに向けて人数はさらに増えるだろう。ただし、さまざまな日本の魅力を体験してもらうためには数だけの話ではなく、品質についても考える必要がある。民泊、シェアリングエコノミーは時代の趨勢であるが、旅行業界としてもそういう状況を受け止めていかなければいけないのだが、日本人とトランプの来日、日本に来た印象が悪くなったりはしていない。今は、規制を緩和して数を増やす動きと品質を確保して日本の良さを実感していただく動きがひしひしと伺われるところだ。

それから新幹線開業については15年に北陸があり、16年は北海道ということで、それによってお客さまの旅行の選択肢が広がっていくというところが見えてきた。地方創生の動きと共に、豪華寝台列車もJR3社で出そろった。坂巻 これは毎年の繰り返しだが、北海道新幹線の開業、あるいはディズニーやUSJの15周年、そういったコトがあるところには人が動いている。注目すべきは、訪日外国人客が10月末で2千万人を超えたという事実。「モノ」からコトへと消費が変わってきた。

17年の旅行はどう動く

坂巻 確かにイベントが少ない年だが、三つの観点から重要な年だ。一つは大きなイベントを控える20年に向けた地ならし、あるいはホップステップのステップをしっかりとやる1年ではないか。20年がエンドではなく、21年以降も考えてきたとき、20年を契機にするためには、非常に重要な1年になる。その中でテーマとなるのは「スポーツと文化」、それから「地方創生」だ。特にスポ

ーと文化については国もいろいろな形で自治体の後押しや取り組みを考えているので、それに対して旅行会社として一緒に、あるいは共有して何をやっていくかを考えることが必要だ。一つの例として昨年、日光で「世界押し花絵芸術祭」を開催した。押し花絵は日本ではメジ

「地方創生」と「DMO」国内市場は堅調に推移

戸川 国内市場は堅調に推移している。DMO(地方創生)の動きも活発化している。DMOは地方創生の推進機関として、観光振興や地域活性化に貢献している。DMOの役割は、観光資源の発掘・整備、観光客の誘致・滞在支援、観光事業者の支援などにある。DMOの活動は、観光立国の実現に大きく貢献している。

ヤーではないが、世界で見ると盛んな国もある。地方にそういうテーマを作ること、そこで何かをすること、そしてテーマと地域を絡ませていくことが、地方創生の第一歩だ。一つの例として昨年、日光で「世界押し花絵芸術祭」を開催した。押し花絵は日本ではメジ



坂巻氏

新幹線で旅行に選択肢 「モノ」から「コト」へ変化

堀坂 新幹線は旅行に選択肢を増やしている。モノからコトへの変化が顕著だ。観光客はモノだけでなく、コト(体験)を求める傾向が強まっている。新幹線は、観光客の移動手段としてだけでなく、観光資源の活用や地域活性化のツールとしても活用されている。新幹線沿線の観光資源の発掘・整備や、観光客の滞在支援など、DMOの役割はますます重要になっている。

堀坂 9月から12月まで山口DCCがあるし、4月から6月までは四国DCCが実施される。地方創生は広域的な連携が求められており、各県の枠組みを超えて四国DCCという形でまとまってやっていく。将来的にはさらに広域にして瀬戸内を盛り上げる動きがあってもいい。また、18年には山陰DCCが予定されている。これは私の持論なのだが、話題を提供していくようなテーマ性が重要だ。特に山口DCCについて言うと、その次の18年に向けては、他社にはない特異性を出していく。高橋 17年の市場の見通しは、国内旅行は堅調に推移し、海外旅行は16年とほぼ同程度と見ている。訪日インバウンドは右肩上がりの状況が続いている。各社の話があったように17年はこれといった大きなイベントがないが、私が注目しているのは中部だ。一つは名古屋(4月)、「フロンティア」という世界でも普通のレゴパークのテーマパークができる。これはちょうど首都圏マーケットと関西マーケットの間に位置して地が良い。年間200万人ぐらいの動員が見込まれているから一つの吸引力になり得る。もう一つ観光促進の材料として期待しているのが、静岡県の浜松を舞台としたNHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」だ。この反響も期待し

進んでいるし、これは大きなインパクトだ。今年、JRグループが発足30周年を迎える。われわれ旅行会社にとってステイタス・シンボルである(DCC)は非常に大きい意味を持つ。30周年を契機にさらに発展していくかと思うが、地域誘客という観点からも、われわれも協力して地域を盛り上げていきたい。また、日本遺産や世界遺産、文化財、国立公園といった新しい切り口の商品を提供していきたい。

これは私の持論なのだが、話題を提供していくようなテーマ性が重要だ。特に山口DCCについて言うと、その次の18年に向けては、他社にはない特異性を出していく。高橋 17年の市場の見通しは、国内旅行は堅調に推移し、海外旅行は16年とほぼ同程度と見ている。訪日インバウンドは右肩上がりの状況が続いている。各社の話があったように17年はこれといった大きなイベントがないが、私が注目しているのは中部だ。一つは名古屋(4月)、「フロンティア」という世界でも普通のレゴパークのテーマパークができる。これはちょうど首都圏マーケットと関西マーケットの間に位置して地が良い。年間200万人ぐらいの動員が見込まれているから一つの吸引力になり得る。もう一つ観光促進の材料として期待しているのが、静岡県の浜松を舞台としたNHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」だ。この反響も期待し

進んでいるし、これは大きなインパクトだ。今年、JRグループが発足30周年を迎える。われわれ旅行会社にとってステイタス・シンボルである(DCC)は非常に大きい意味を持つ。30周年を契機にさらに発展していくかと思うが、地域誘客という観点からも、われわれも協力して地域を盛り上げていきたい。また、日本遺産や世界遺産、文化財、国立公園といった新しい切り口の商品を提供していきたい。



戸川氏

高橋 国内市場は堅調に推移している。DMO(地方創生)の動きも活発化している。DMOは地方創生の推進機関として、観光振興や地域活性化に貢献している。DMOの役割は、観光資源の発掘・整備、観光客の誘致・滞在支援、観光事業者の支援などにある。DMOの活動は、観光立国の実現に大きく貢献している。

天下の三名泉 下呂温泉

湯につつまれた四季折々の旅を

下呂温泉 水明館

岐阜県下呂市幸田1268
TEL (0576) 25-2800 FAX (0576) 25-4520
URL: <http://www.suimeikan.co.jp/>
チェックイン午後2時 → チェックアウト翌昼12時

楡の香る「下留の湯」

選べる5つの料理

部屋食・宴会場(会席)、オープンキッチンダイニング「常盤」(和洋)、料理茶屋「北乃寮」(郷土料理)、欧風レストラン「バーデンバーデン」(フレンチ)、チャイナルーム「龍遊里」(中華)。ティータイムはロビーラウンジ「エビアン」、ナイトタイムはバー「マローネ」でお寛ぎ頂けます。

NEW OPEN

今年8月にオープンしたチャイナルーム「龍遊里」

館内で湯めぐり

野趣溢れる野天風呂(山水閣1階)、街を見下ろす展望大浴場(飛泉閣9階)、檜の香る下留の湯(臨川閣3階)、趣の異なる3つの貸切風呂など。

野天風呂「龍神の湯」▶

館内ツアーを毎日開催

数々の芸術品や日本建築の美しさを見学頂けます。

臨川閣2階ロビー▶

すいめいヘルスクラブ

厚生労働大臣認定
健康増進施設・指定運動療法施設

本格的なアスレックスジムと温泉を利用した室内プール(25m5コース、水深110cm~125cm)。夏期にはレジャー用屋外プールもオープン。

【指定運動療法施設とは】
医師が交付した運動処方箋を元に、運動指導を行える環境・人材・設備が整った施設。運動療法を目的に、「指定運動療法施設」をご利用になると所得税の医療費控除の対象となります。